

第 41 回歴史地震研究会（木曽御嶽大会）のお知らせ（第 3 報）

第 41 回歴史地震研究会（木曽御嶽大会）のプログラムが決定いたしました。講演要旨送付の締め切りは、7 月 31 日（水）です。送付先は、[4. 講演要旨について](#) をご参照下さい。大会参加申込は今回事前登録制です。[7. 大会参加申込](#) をご参照下さい。

巡検は早期キャンセルが発生しましたので、数名追加申込可能です。[6. 巡検](#) をご欄ください。

1. 研究発表会の場所

木曽町文化交流センター 多目的ホール

長野県木曽郡木曽町福島 5129 番地（JR 木曽福島駅徒歩 13 分）

<https://www.town-kiso.com/facility/100034/>

<https://www.town->

[kiso.com/files/file/box/bb/bbf7ac8eccdd4427596aa554a250854d986ed700.pdf](https://www.town-kiso.com/files/file/box/bb/bbf7ac8eccdd4427596aa554a250854d986ed700.pdf)

2. 日程

2024 年 9 月 13 日（金）午後～15 日（日）の 3 日間

1 日目：研究会・総会・懇親会

懇親会は、おんたけ休暇村で開催します。駅近くに宿泊の方は送迎します。

注：中央本線で通う方もあるかと考え、戻りは 21 時木曽福島駅到着を目指してはおりますが、保証の限りではありません。万一最終特急を逃しても終電の普通列車で、北は松本、西は中津川までは戻れるはずです。

2 日目：研究会

3 日目：巡検・公開講演会・地域交流会

○大会参加費として、事前申し込み時に会員・非会員とも 2,500 円（学生は無料）を徴収します。

○今回の公開講演会・地域交流会は巡検コースに含まれますが、王滝村公民館まで自力で往復できるならば巡検に参加しなくても参加が可能です。

3. 公開講演会・地域交流会

テーマ：「長野県西部地震から 40 年」

○ 当時を知る飯尾能久京都大学名誉教授の講演

○ 元王滝村誌編纂室長 澤田義幸氏（御嶽山火山マイスターネットワーク代表）のお話

○ 地震を経験された方の体験談など地域交流の時間

日 時：2024 年 9 月 15 日（日）13:00～15:00（12:30 開場）

場 所：王滝村公民館 長野県木曽郡王滝村 2758 番地 3

主 催：歴史地震研究会

共 催：王滝村

後 援：国土交通省中部地方整備局（申請中）、長野県、木曾町、木曾町教育委員会、御嶽山火山マイスターネットワーク、名古屋大学減災連携研究センター・地震火山研究センター・御嶽山火山研究施設

参加費：無料

対 象：どなたでも（長野県西部地震を経験された方、経験されていない方など）

4. 講演要旨について（締切 7 月 31 日（水））

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ（厳守）、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word ファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ Word ファイルを電子メールで下記のメールアドレスに 7 月 31 日までに提出して下さい。要旨を一旦提出した後に差替えする場合、差替えることが分かるようにメールの件名に（差替え）と記して下さい。差替えも 7 月 31 日締切です。

要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/docs/AbstractFormat.docx>

講演要旨提出用メールアドレス： rekishizishin2024@gmail.com

5. 発表について

口頭発表は、各自の PC を接続してください。発表時間は 12 分、質疑応答が 3 分です。ポスターは初日から大会議室の中に掲示できます。縦 180cm×横 120cm のボード内に納まるようにご用意ください。但し、会場指定の粘着剤ひつつき虫（<https://www.kokuyost.co.jp/stationery/hittsuki/>）以外は利用できないので、軽い用紙がお勧めです。7 月現在新型コロナウイルス変異株は KP.2 や KP.3 と新種流行の兆しがありますので、発表者はコアタイムにマスク着用等、個々人の対処判断を予めご検討願います。

6. 巡検

木曾町文化交流センター前（8 時頃）～木曾町御嶽山ビジターセンターさとテラス三岳～震災慰霊碑・噴火慰霊碑～御嶽崩れ・御嶽山・ビジターセンターやまテラス王滝など（弁当昼食）～王滝村公民館（公開講演会・地域交流会）→ JR 木曾福島駅（16 時頃解散予定）

注：秋の行楽シーズンの週末なので、木曾福島駅到着予定時刻は目安であり保証の限りではございません。中央本線特急等帰路の切符手配等は柔軟にお願いいたします。

尚、現在早期キャンセルが発生しており、まだ数名参加可能です（7 月 12 日現在）。

https://select-type.com/rsv/?id=Vt7RNEz0QQI&c_id=337957&mode=1&ym=2024-09

からプラン H 巡検参加費で申込決済完了順とし、埋まり次第終了となりますので、参加希望の方はお早めに手続きしてください。

7. 大会参加申込

今回は事前申し込み制です。下記より 7 月 31 日までに申込決済完了をお願いいたします。

プラン G 研究会参加

https://select-type.com/rsv/?id=Vt7RNEz0QQI&c_id=337860&mode=1&ym=2024-09

注：当日会場は事前申込完了者優先です。現地で参加申込の場合、ダウンロード配布の予稿集を当日は見られない他、入場までに相当お待ち頂く可能性があります。講演者は 7 月末日までに参加申込決済完了と会費の完納が確認できない場合講演取消となります。会員各位の発表会運営円滑化へのご協力を是非お願い申し上げます。

8. 研究会会場までのアクセス情報と周辺情報

会場（木曾町文化交流センター）は、JR 中央本線の木曾福島駅から徒歩約 10 分の場所にあります。木曾福島駅には、上り下りとも概ね 1 時間に 1 本の特急（しなの）が停車します。

研究会会場の周辺では昼食が取れる場所が数軒程度に限られます。徒歩 15 分圏内に、セブンイレブンやイオン（スーパー）があります。

帰りの列車の情報（7 月 5 日現在）

○名古屋方面

- ・しなの 18 号 木曾福島 16:31 発—千種 17:56 着—名古屋 18:07 着
- ・しなの 20 号 木曾福島 17:31 発—千種 18:56 着—名古屋 19:07 着

○塩尻・長野方面

- ・しなの 17 号 木曾福島 16:25 発—塩尻 16:54 着—松本 17:04 着—長野 18:00 着
- ・松本行 16:34 発—塩尻 17:21 着—松本 17:47 着

※新宿方面には、塩尻駅 17:29 発新宿行き特急あずさ 50 号があります。

※長野駅で北陸新幹線に乗り換えできます。

第 41 回歴史地震研究会（木曾御嶽大会）プログラム

9月13日（金）

研究発表会（第1日） 開場・受付開始 12:00～
開会の挨拶 13:00～13:15
祝辞 木曾町長 原 久仁男様
口頭発表セッションⅠ 13:15～14:30
座長 松浦律子

O-01 今村隆正

長野県西部地震と山津波災害－生還者の証言と教訓－

O-02 宋倉正展

木曾山脈西縁断層帯の活動性に関するレビュー

O-03 原田和彦

前近代における長野県大北地域の地震活動

O-04 山浦直人

善光寺地震（1847）における余震・鳴動記録とその活動範囲

O-05 入江さやか

松本藩関係者による 1847 年善光寺地震絵図

休憩<10分>

口頭発表セッションⅡ 14:40～15:55

座長 宋倉正展

O-06 宮川充史

濃尾地震における死者の特徴

O-07 河内一男

天長秋田の地震と昭和新潟地震の「大河の水枯れる」

O-08 都司嘉宣

秋田県千屋断層は明治 29 年（1896 年）と応永 30 年（1423 年）に起震した

O-09 鏡味洋史・水田敏彦

地震体験集から読み解く福島県会津での 1964 年新潟地震

O-10 松浦律子

1751 年宝暦越後の地震の震源域は鳥ヶ首岬沖の沿岸海域だ

休憩<10分>

総会 16:05～16:40

懇親会 18:00～

9月14日(土)

研究発表会(第2日) 開場・受付開始 9:00~

口頭発表セッションⅢ 9:30~10:30

座長 行谷佑一

O-11 石辺岳男・小川陽子・木内亮太・西條裕介・古村美津子・松浦律子

機械学習を用いた震度データからの震源推定の可能性検討

O-12 服部健太郎・大邑潤三

1870年の伊豆諸島南部の海底火山噴火

O-13 松岡祐也

八丈島慶長十年噴火に関する史料の検討

O-14 武村雅之

「愚漫大人見聞録」が記す朝鮮人殺傷事件 - 関東大震災の闇を考える -

休憩<10分>

口頭発表セッションⅣ 10:40~11:55

座長 松岡祐也

O-15 水田敏彦・鏡味洋史

秋田から見た1923年関東大震災 - 秋田県公文書館収蔵資料の内容紹介 -

O-16 行谷佑一

熱海市における1703年元禄関東地震津波の挙動について

O-17 三神 厚・神山 眞・藤田孝康

関東地震や南海地震にともなう地盤隆起によって被災した漁港とその復興

O-18 柳井七海・福島栄寿・北村昌卓・平井 敬

戦時下の新聞は昭和東南海地震をいかに伝えたか

O-19 西山昭仁・原田智也

前近代の南海トラフ地震前後における京都での有感記録の検討

昼休み<1時間5分>

ポスターセッション コアタイム 13:00~14:15

休憩<15分>

口頭発表セッションⅤ 14:30~15:30

座長 蝦名裕一

O-20 榎原雅治

寺社修造件数でみる「明応南海地震」の可能性

O-21 水野 嶺

明応七年六月十一日地震の再検討

O-22 今井健太郎・楠本 聡・堀 高峰

1707 年宝永地震の波源断層モデル再考

O-23 中川和之

1984 年、村のコピー用紙はなぜ足りなくなった？

休憩<15 分>

口頭発表セッションVI 15:45~16:30

座長 石辺岳男

O-24 佐々木淳

享徳地震津波に関する史料である可能性が高い記録について

O-25 大邑潤三・加納靖之

賀茂別雷神社「社記仮附」にみられる文政京都地震の余震記録の検討

O-26 蝦名裕一

1611 年慶長奥州地震津波の発生時刻および震度の再検討

ポスター発表

P-01 原田智也・西山昭仁

奈良県南部の史料に記録された安政東海・南海地震

P-02 板東大生・馬場俊孝

安政東海地震における静岡県での火災被害

P-03 久永哲也・内田篤貴・黒川知萌巳・小川典芳・北川穂乃香・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について

(その 6)

P-04 加納靖之・大邑潤三

『新収日本地震史料』の編纂時資料のデジタル化

P-05 伊尾木圭衣・山下裕亮

宮崎県宮崎市沿岸での津波浸水範囲の考察

P-06 徳田光希・荒井賢一

埼玉県所沢市に残る日記から読み取れる 1923 年関東地震の前後に発生した地震

P-07 青島 晃

通信調査に基づく濃尾地震（1891）による岐阜県・愛知県の液状化現象

P-08 石瀬素子・大邑潤三・加納靖之・飯野真帆・長嶋史明・吾妻 崇・松島信一

1894 年庄内地震の被害分布に関する検討

P-09 都司嘉宣・今井健太郎・畔柳陽介・木南孝博

嘉祥三年（850）出羽地震とその津波について

P-10 都司嘉宣

安政 5 年（1858）飛越地震の集落別死